

❀ 退職の辞

入所からもう30年も経ったのかというのが、率直な感想です。2年10ヶ月間の平城宮跡発掘調査部(当時)時代を除くと、情報関係と国際関係にずっと従事してきました。いろいろな国で発掘調査や研修事業に参加できたことは、入所当初は想像もしていなかった貴重な体験でした。イースター島でモアイの足もと(多くのモアイには脚の表現はありませんが)を掘りました。そう言えば東大寺南大門の仁王像の足もとも発掘しました。カンボジアでは、タニの窯跡と西トップ遺跡の調査に参加しました。ミャンマーでは、研修事業に携わり、窯跡の発掘もお手伝いしました。また、キルギスで都城跡の調査を経験しました。しかし、何よりもアフガニスタンのバーミヤーンで、ストゥーパなどを発掘したことが思い出されます。同じ国を何度も訪れることで、一過性ではない人の付き合いが生まれ、それが長く維持されながらつなげて発展していくというを経験できたことは、私個人にとっての大きな糧であると同時に研究所の資産ともなったものと思います。いろいろな世界を見せていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。(企画調整部 森本 晋)



森本部長・渡補佐・松本補佐(左から)